

開催日：平成30年12月4日（火）
開催場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

釧路湿原自然再生協議会 第21回湿原再生小委員会 議事要旨

会議の冒頭、事務局から第20回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）について説明を行った。

また、委員長に照井委員、委員長代理に神田委員が選出された。

■議事1：幌呂地区湿原再生事業について

事務局（開発建設部）から説明を行い、内容について協議が行われた。

（委員）

P. 30のモニタリングで「クシロカミサゲ」が増えている。これについて説明してほしい。

（委員）

「クシロカミサゲ」は“クシロ”と名前はついているが外来種である。一般的に外来種は良くないが、湿原に一般的にみられ、オオアワダチソウのように侵入が問題となっているものではない。湿原環境になっていると捉えた方が良い。

（委員）

広い面積の植生調査は大変だったと思う。今年も現場が広がるが、調査を続けていく予定か。また、P. 28のH27-1区画は変化が少ないように見えるが、P. 40のグラフではヨシなどが生えている。どのような評価になるのか。

（事務局）

植生図の作成は毎年ではなく、モニタリング結果をみながら実施する予定。H27-1区画はH28-29に種数が増加した。その後H29-30はほぼ平衡状態である。今後の植生の推移を注視していく。

（委員）

未利用排水路を埋め戻した土は、締固めているのか。また、未利用排水路付近の地下水位を上げるために排水路の埋戻しを行っているが、地下水位観測は目的に合った位置で観測しているか。そうでもないように思う。短期的にでも計測して排水路の埋戻し効果を確認することが必要ではないか。

(事務局)

施工の際、泥炭なので転圧ができない。バケット等で押さえるといった程度で、締固め度などの品質管理はしていない。地下水位観測は過年度から設置していた箇所継続している。どの部分が排水路埋め戻しによる地下水位の上昇効果なのか、解析は行っていない。どこまでできるか分からないが、今後は意識してやっていきたい。

(委員)

P. 35の図は切り下げ前に比べて地下水が上がっている。他の地点は切り下げると地下水位が下がっているの、P. 35の地点では排水路埋戻しによる地下水位上昇の効果があったのではないかと思う。

(委員)

未利用排水路を埋めて周辺の地下水位が上がるというシミュレーションをして、工事を実施してきている経緯があるので、検証は必要と思う。

(委員)

P. 8の暗渠管は何年に埋設されて、材質は何なのか。管に何かを巻いていたのではないかと思うが、それはあったのか、腐ってなくなっていたか。また、土が詰まって排水できなくなっていたのか、機能していたのか。

(事務局)

この地区の農地開発が始まった1970年代に暗渠管が埋設されたと想定される。農業排水で用いる塩化ビニール製の暗渠管を使用しており、有孔管で無数の穴があいている。フィルター材は巻いていなかった。現在も機能していて、切ると水が出てきた。暗渠管があると排水効果により、地盤を切り下げても地下水位が低下するので、施工時に暗渠管は撤去または、キャップをはめて排水機能を無くしている。

(委員)

暗渠管の内部は土砂が詰まっていたのか、クリーンな状態だったか。

(事務局)

土砂の詰まりはなく健全な状態であった。

(委員)

以前、暗渠管が機能している可能性があるとは指摘したが、暗渠管を撤去していただけて良かったと思う。

(委員)

H28年度の土砂置場は、撤去して欲しいとお願いしているが、今後の予定を聞かせてほしい。

(事務局)

土砂置場は、鶴居村所有地に置土。置土箇所はまだ沈下中であり、鶴居村に返還できない状態である。置土が安定するまで釧路開発建設部がモニタリングして監視していく必要があると考えている。

(委員)

H28置土場の法面に散布した種子はどのようなものか。

(事務局)

ケンタッキーブルーグラスという牧草種を播種している。

■議事2：達古武湖自然再生事業について

事務局(環境省)から説明を行い、内容について協議が行われた。

(委員)

P. 12の下にある水質について、D0はヒシ刈り後に上昇する傾向があったとあるが、D0は数値が上がるほうが良い。制御区よりも対照区で高い数値が確認された、と記載されている部分はどのように解釈したらよいのか。

(事務局)

例年は対照区よりも制御区の方が高い値を示すが、今年度は逆転がみられた。理由については今のところはっきりしていない。

(委員)

D0が高いということは、少しは良い状態と捉えて良いか。

(委員)

あくまで制御区と対象区を比較したものであり、実際はどちらもD0の数値が上がった、と理解してよいか。

(事務局)

具体的な数字は示していないが、ヒシが多いところだと例年D0がゼロになるケースがかなり多い。今年は制御区・対照区ともにD0がゼロにはなっておらず、ある程度維持されていた。

(委員)

ウチダザリガニ対策としては DO は上がらない方がよい。刈り取りを行った結果、DO が上がりウチダザリガニが侵入するようになると本末転倒である。ただ、今のところウチダザリガニはいないという調査結果であるため、その点については問題ないと思う。

(委員)

2,3年前に、窒素とリンの対策で発生源の場所を掘削した。その後、窒素やリンは改善されたという報告があったと思うが、今年はどうだったのか。

(事務局)

堆肥が積んであった箇所について、数年前に除去工事を行い、そこから出てくる量は減ったが、達古武湖に入ってくる全体の窒素・リンの量から見るとほんの一部である。堆肥を積んでいたところよりもさらに上流から入ってくる窒素・リンについては十分な対策をとれていないため、減少はしていない。負荷が削減されたものもあるが、湖内の水質に関しては十分改善できていると言えない現状である。

(委員)

除去した結果がこれから出てくる可能性はあるのか。

(事務局)

除去した場所に関しては、そこから溶出する窒素・リンの状況をチェックしており、ピンポイントでは減少している。ある程度効果が出ていると見てはいるが、別途、上流側から入ってくる窒素の量を測定している結果をみると、全体としては十分に下がりきっていない。

(委員)

大規模に堆積していた発生源を撤去したので、その結果が分かるように示してほしい。また、ヒシの刈り取りに苦勞されているようだが、種が実った頃に、上をこすり取るようにして種をとってしまう方法もあると思う。検討していただきたい。

(事務局)

ヒシの刈り取りについては、人工が集まらない等、苦勞している部分もあるので、効率的な方法を検討していきたい。

(委員)

ワイヤー刈りについて、1回の刈り幅はどれくらいなのか。ワイヤーは直径何 mm のワイヤーなのか。材質は鋼製なのか、ステンレスなのか。

(事務局)

刈り幅は2mくらいである。ワイヤーの太さ等に関しては、福井県の三方五湖で実施されている方法がマニュアルとして公表されており、それを参考に実施した。細すぎるとワイヤーが切れてしまい、太すぎると刈れないといったバランスがあり、工夫しながら行っている。材質については、手元に資料が無く詳細が分からない。

(委員)

三方五湖のヒシ対策ガイドラインについて、次回会議の際に事務局から紹介してほしい。

(委員)

ワイヤー刈りでは希少種の水生植物まで刈り取ってしまう心配がある。希少種が点在していればワイヤー刈りを使用しないなど、配慮されているのか。

(事務局)

ご指摘のとおり、貴重種も一緒に刈ってしまう恐れがあるため、そのような場所は刈らないように、どのあたりに希少植物があるかを把握して実施する必要があると考えている。

■議事3：広里地区湿原再生事業について

事務局(環境省)から説明を行い、内容について協議が行われた。

(委員)

広里の植生変化を長い間を皆さんが見守ってきて、放棄しておけば湿原に戻るに違いないという予想をしてきたが、それが見事に現れてきたと思う。農地として土地改良したところは、そのままでは湿原植生が回復しないので、地下水位に近いところまで切り下げていく必要がある。幌呂での実験や広里の経験をまとめて、今後の湿原再生手法に活かしていくことが必要ではないかと思う。ハンノキ林については、5年ごとにモニタリングをするということなので、今後新たに実生でハンノキが根を下ろすのか、今あるハンノキ林の萌芽林が今後どうなっていくのかを注視していけば良いと思う。

■その他(情報提供)

事務局(開発建設部)から、釧路川河川整備計画(国管理区間)(平成20年3月策定)の見直しに向けた情報提供を行った。

以 上